

焦って、た自分、どうしてよいかわがらなから
た自分。その一言で、ハッとした。どうも、
。たら負け。また正午前ではないが、おかげで、
箱根八里、こまかしたって何とかなるさ。妙な
もので、どう思うと、どしどし、雨もすかす
がしと感じてくる。

水にこそ長い、雨に長い。おまけに、
永久にこの山を越える水方いゝでは、
と思った。坂は急なはなにか、ゆるい長い。イ
水に、
「もし晴水でいたら、どんなにすばらしい景色
たさつた。」

と思つて、おなごとなりなり。小学六年の時に見た
芦ノ湖、十和田湖など問題とはななち。た。たか
の田のオシには、箱根とは一刻も早く抜け出

またい所をさしなうた。下りて、夜中から
にやうになる。雨が目にまき、ま痛い。

三島、沼津、富士。ここは其々迷つ。一歩
をま、すか走つて、たつちりか、ませか田子の
浦邊へ。雨に不意なまじり、その日は休日た
から、今方とると当然なうか、巨大な工場か
あるた。

「誰一人」
いなり基が林学にわかかった。

「あしがしたらこの世にオシ以外誰もまきで
なりのごま。」

自と考えたりした。雨にわかかった。

その時、突然（オシにはやう思つた）西の空
が晴れて、光がさして来た。振り返ると、ニ
日雲土山、鴨が日本まはす蛙が。また、ま

息を吐く風景、空の一角が、カ
ーが光がさし込め、空が明るくな
る。

「大躍、なんとすばらしいところだ」

おしくも清水まで行けなかつたが、よの切
手と有知な蒲原まで来た。箱根越えて初
日にしてはよかや、たと思つ。駅前にも、喧
嘩の旅館に泊まる。

※十日六日(日)

今日は予想通り、青い空、や、ほりサイクリ

ンが青空の下でかゝつては楽くない。旅館の

おばさんに、今日は一号线をまゝ、おん、豊橋ま

で行くつもりです、と言、たこと、

「三三まで来て日本平へ行かんか、たうまらん

よ。

と空をゆたかして、途中寄つてやることにする。

そやほど急な上りではないので、長乗に乗

ていると、ハフになつても着がない。日本平に

ときと休んでたまるがし、ムキになつて一駅に

行く。結局300m弱の上りであつた。

おが本日、ハイライトは、浜松のユースで夜

間、たいせり入人夫妻、エシな機口2度とない

とばかり隣り、軒屋に居る位、所へ行くと、

つとも奥さん、華しきに舞せらつた、

おが本音。

彼らが知つて、いる日本舞は、た、お三つ、

「エキ、アリガト、オヨソ」

おみと知つて、かく然とした。だが、今、お

しの筆会話、実力を発揮すおは何とかなると思

つた。

彼ら四年前、結婚と同時にロードーを佐にし

て、ロードーにアフリカ、オーストラリア、

東南アジアと旅して来て、二週間前には福岡に

着いたと云った。それから、南アフリカで一年、

オーストラリアで一年働いて、それから一週

間後、ニュージーランドを回ってロードーへ帰るつもりだ

とモロートンで働いて金を貯けたら、今度は南

アメリカに行くつもりだ、と云う。

かういふ人々がこの世にいる事は知って、

のだが、自分が今こんな人と話して、いるといふ

事、どうしても信じられなかつた。彼らを生か

すも、つとめつるという言葉をしが表現できな

い自分が情けなかつた。誰もか一度は考へるが

なかりなげてきない生き方。オレもせめて何らか

ように、ロ・と云うは来ぬならようにしたい。

と思つた。

京都の女たちには会いた行くと云つて、果

し、オザリたすろつぽやうに

「ボクイ？」

と聞く。

「オブ、コース」

と云つたら驚いて、

そしてヤボと知りつつ聞かせる。

「なせ林をしてみんなでですか？」

「この道事か涼が出るほど、よう、たんだま。

“To see beautiful sights. To meet many people”

(Pointing to map)

ヤ十月七日

今日は、何となく走った一日。古く屋上

は庭園をに書いてしまふ、よく早はよと云つて

市内見物として必も。敏田神社、如古屋坂

10B-1 ↓
で、かくてながながよろしい。ともかくたまに
車はいいことなんぢな。中に入るし、しらける

から城は外から見ていた。

四時過ぎに岐阜のユースに電話する。急に明

岐阜までの名岐バイク、その車もものすごく

とぼしている。国も橋守のりにゆいてくるかと

生きた心地がない。やっ、と一宮を越したと思

った。また一宮、また一宮に来る。

やっ、と。車は岐阜に着いたのだけれど、ユース

はまだおぼろしくややこしい。おぼろげなま、く

り。結局、金華山の頂上まで上り、やっ、とユース

に到着。でもここから見た岐阜、実にす

ばらしかつた。

アマリントに思い、思いと女何と言やめた上

まど知今でナニを言や、かたづけえ。プロト入

りて出る、こまかす、かく黙とした。

夜は同じ部屋に、片側から来たサイクリスト

がいて、すつと話していた。王座には聞かす

た、というすまたろうな。まださ、彼がオシ

が自転車のこといろいろ知、ていふと夜定して

一人で話していたのだから。オヒま、さるさる

さるさると寛いおぼ、...と思、た。明日は、

よ、よ京都、おぼ、...と思、た。明日は、

さ晴れることを祈る。

十月八日(水)

朝、どしゃぶり。連泊が...と思、てはる

うちに晴れて来る。同じ部屋の人に、例、サイ

クリストとい、しよに写真をと、てもらう。

四時前に出発。十時過ぎ、大垣、山崎線沿

り

「田代野も静かさを羨思。ま、行くも静かな存在
ま、た、おじさん曰く、

「東京でこのようにして暮らしてはならないと
すか、

オレも静か。

開、原は全く静かだ。だがここを越してか
ら一筋と、開西、と、この感じにな、てくる。ま

にしうと、いし、うりかキが急に変わ、てきたの
か、と、い、

「さ、お知具立太のツンダルの人たちに会う、

伊勢湾から若狭湾へ、本州横断の途中とか、

官邸うまやうにワグロをさすう女性がいた、イキ

な姉さん、という感じだな。みんないい人ばかり

りなやどゆ、くりしていたが、だが、なだらさ

ま、お知具なるか、と、や、くりましておれん。

前橋、草津、大津、そして彦坂の題。この大
ころか、ま、こが水。併京都。ま、もう一息。

「京都市」

この神話を見たとき、自分が熱くなったく
る。どうとうオレ、来たんだな、と、と、と、と、

ま、せか、静か、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
のり、と、と、と、と、と、と、と、と、と、